

サッカーゴールを寄贈



2月12日、可児ライオンズクラブからサッカーゴール4基とそのネット、得点板1台を寄贈していただきました。この寄贈は同クラブ結成60周年記念事業の一環で、実行委員長の渡辺正明さんは「子どもたちに活用してもらいたい。可児からもプロ選手が出てくれれば」と期待を寄せました。

ゴールなどは今後、運動公園グラウンドや現在整備中の土田渡多目的広場で利用されます。

麒麟がつれてきたステキな思い出



「麒麟がくる ぎふ可児 大河ドラマ館」が2月14日に閉館を迎えました。来館者からは「手作り感満載の素敵なドラマ館でした」「ドラマ館に何度も行けて良い思い出になりました」という声が聞かれました。

開館日数344日の来館者数は8万9381人。同時開催をした明智光秀博覧会は34万5930人でした。

これからも明智光秀の関連展示などは花フェスタ記念公園で引き続きご覧いただけます。明智光秀ブロンズ像がある明智城跡にも遊びにきてくださいね。

学生時代、国宝「銘卯花牆」が焼かれた可児の歴史に興味があつて、荒川豊蔵先生のお宅に伺ったことがあります。これが可児の美濃桃山陶との出会いでした。その帰りに土岐市まで足を延ばして、志野茶碗を作陶したことを思い出します。

年月が過ぎて、再度おじゃました豊蔵先生の陶房は、ほとんど朽ち果てたような状態で驚きました。当時管理されていた方から、市長になった私に市で管理して欲しいと依頼されました。私は、こんなに素晴らしい歴史あるこの場所を、市民の皆さんに知ってもらい、次世代へつないでいきたいという思いから、豊蔵先生が作陶されていた当時の様子をそのまま残し、国宝が焼かれた場所「美濃桃山陶の聖地」として整備しました。

そして今年、2021年はセラミックパークMINOを主会場に、「国際陶磁器フェスティバル美濃」が開催されます。これ

を機に可児市の作陶の文化を多くの皆さんに知っていただければ、世界にPRしていきたいと考えています。

さて、前段の私が作った茶碗に話を戻します。私は当時八百屋をしていた自宅の店の隅に「1万円」の値段を付けて、置いておきました。後日店をのぞくと、その茶碗が無くなっていたので、店にいた母に聞くと、その茶碗は売れたとのこと！45〜6年も前に1万円ですれた私の志野茶碗、今も誰かが愛用していただけないかしら。



私にとつての
美濃桃山陶



可児市長 高橋 健二

